

至誠館大学

科目名	社会福祉援助技術演習Ⅲ			コード	1512		
英語表記	Seminar in social work practice Ⅲ						
担当教員名	梅木 幹司			年度	平成28年度		
基準年次	4年次	開講期	後期	単位数	1		
授業形態		授業形式	演習	履修形態	社会福祉		
授業概要							
社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱ、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、これまでの学習と実習における体験から実践的な援助方法について学習する。社会福祉援助技術に関するこれまでの学習を踏まえ、実際に実習で体験したことについて考察し、グループディスカッションや個別指導によって実践的な理解を深める。本演習は、演習科目の集大成として実践場で通用する力を養う。							
到達目標							
・実習の体験を言語化することができる。							
・事例研究を通じて実践的理解を深める。							
直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術について総合的に理解し、考察するこれができ							
授業計画							
第1回	オリエンテーション ～社会福祉援助技術演習Ⅲの目的とねらい～						
第2回	実習レポートⅠ ～実習における体験に関するレポート(グループ指導)～						
第3回	実習レポートⅡ ～実習における体験に関するレポート(個別指導)～						
第4回	実習レポートⅢ ～実習における体験に関するレポート(個別指導)～						
第5回	実習体験の共有Ⅰ ～実習における各自の体験の共有(グループ指導)～						
第6回	実習体験の共有Ⅱ ～実習における各自の体験の共有(グループ指導)～						
第7回	実習体験と相談援助Ⅰ ～実習の体験と相談援助(グループ指導)～						
第8回	実習体験と相談援助Ⅱ ～実習の体験と相談援助(グループ指導)～						
第9回	実習体験と相談援助Ⅲ ～実習の体験と相談援助(個別指導)～						
第10回	実習体験と相談援助Ⅳ ～実習の体験と相談援助(個別指導)～						
第11回	実習体験と事例 ～実習における各自の体験と事例(グループ指導)～						
第12回	実習体験と事例研究 ～実習における各自の体験と事例(グループ指導)～						
第13回	実習体験と事例 ～実習における各自の体験と事例(個別指導)～						
第14回							
第15回							
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
欠席については認めない。授業への積極的な参加態度、発表、レポートならびに試験により総合的に評価を行う。試験については、実践的な理解度を重視する。演習科目であるため積極的な授業参画を重要視した評価とする。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				40	10	50	
授業外学習			テキスト、教材				
			「社会福祉士 相談援助演習」中央法規出版				
参考書			受講生へのメッセージ				
授業の中で紹介する。			社会福祉士指定科目であるため、受験資格取得予定者は必ず履修すること。本演習では欠席を認めないため、やむを得ない欠席の場合は、補習授業により欠席分を補う。				
キーワード							
実習体験 グループディスカッション 事例研究 実践的理解 情報共有							